

副作用モニタリングを行い副作用対策の薬剤追加を提案

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は持参薬確認時に前回治療の副作用モニタリングを行い、副作用対策の薬剤追加を提案した報告をもとに紹介いたします。

患者背景

- ・食道がんに対し化学療法
- ・FP 療法（5-FU、シスプラチン）

A さん



薬剤師が持参薬確認・副作用モニタリングに訪室

患者 A さん



A さん、前回の治療後変わりないですか？



それがねー、しゃっくりがすごい出るんよ。しゃっくりするから食事もなかなか食べれなくてね・・・

患者へ提案

それは辛いですね。
A さん、しゃっくり鎮めるお薬があるので、先生に出してもらえるか相談してみましょうか？



試しに飲んでみようかな。先生にお願いしてもらえますか？



医師へ提案

A さんですが、前回の FP 療法後より自宅でしゃっくりが続くことがあるようです。恐らくシスプラチンの影響かと思われます。A さんに吃逆を鎮めるお薬もある旨をお話ししたら飲んでみたいとのことでした。副作用対策に芍薬甘草湯を試してみるのはいかがでしょうか？



医師



とりあえず今日より芍薬甘草湯を飲んで様子を見てみましょう。

お薬（芍薬甘草湯）飲みだしてから楽になったよ。



患者の副作用の訴えを聞き、副作用に対する薬剤を提案することで適切な薬物治療へ貢献できた。